

食道癌の体軸断面における腫瘍位置とリンパ節転移の頻度および長期予後との関連に関する後ろ向き研究

1. 研究の対象

1998年1月から2017年12月の間に当院において食道癌に対して根治的手術を受けられた患者さん

2. 研究目的・方法

食道癌は、低侵襲な胸腔鏡手術の導入や定形化などの手術の進歩や、化学療法や放射線治療を含めた集学的治療の進歩が著しい現在においても5年生存率が全体で44.4%と未だ不良な疾患です。食道癌の予後が他の消化器癌と比較して不良である理由のひとつとして、漿膜という構造を持たないため壁外へ進展しやすいという食道の解剖学的特徴が挙げられます。また大動脈、気管、肺、心膜といった重要な臓器に周囲を固定されるとともに体内で最も主要なリンパ流である胸管が近傍を並走しており、これらへの浸潤は外科的切除での根治性にも関わります。これまで食道の垂直方向の占居部位の違いがリンパ節転移の頻度や予後と関連することは示されてきましたが、水平方向（体軸断面）の占居部位においてはその関連は明らかとなっておりません。しかし体軸断面における占居部位の違いは周囲臓器への浸潤やリンパ節転移と関わる可能性があり、検討の余地があると考えます。

そこで今回我々は、当科における食道癌患者の体軸断面における腫瘍位置と癌の長期予後の関連について後方視的に検討します。もともと患者様の食道癌に対する精査の目的で行った検査結果を使用するため、追加で行う検査はありません。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

腫瘍位置の判定には当院で食道癌の術前精査として行った上部消化管内視鏡の結果を用います。また、その他の臨床病理学的所見として、食道切除手術における切除検体の病理検体診断結果のほか、身長、体重、既往歴、食道癌再発の有無、再発形式、予後を含む診療録を参照して取得した情報、初診時や術前の採血データ、臨床的に食道癌の病期を判定する際に用いたCT画像などを使用します。すべてのデータは対応表を作成した匿名化を行って研究に利用します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

担当者：防衛医科大学校 外科学講座 講師 菅澤英一（研究責任者）

住所：〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

電話：04-2995-1216